2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p><u>対象地域において思春期の妊娠数減少に貢献する。</u></p> <p>長期的かつ顕著な減少傾向を確認するには時期尚早であるが、対象である4つの保健所管轄地域における思春期妊婦数は事業開始前(2014年)の182人に対し161人(2015年)へと減少している。</p>
(2) 事業内容	<p><u>活動1: 保健所の思春期層に対するリプロダクティブヘルスケアサービスの内容と提供環境の向上</u></p> <p>地域の思春期層、親、教師に対して思春期リプロダクティブヘルスに関する意識や知識を問うベースライン調査を実施した。その後、4つの保健所(サン・ディエゴ、フティアパ、チチカステ、ヴィジャ・サンタ)のスタッフ計12名を対象に、価値観、思春期層と大人のコミュニケーション、性とジェンダー、保健サービスの向上のための活動計画(アクションプラン)等をテーマに合計10日間の研修を実施した。その後、保健所と学校が協力し、定期的に学校でワークショップを行い、ピアルームに質問箱を設置するなど、思春期リプロダクティブヘルスの状況を改善させるためのアクションプランが策定・実施された。同プランに基づき、学校教師、保護者、生徒のピアリーダーらが協力し、ピアルーム(後述)に関する広報と啓発を兼ねた保健フェスティバルやリサイクルフェアなどのイベント、また思春期層に対するカウンセリングなどを実施した。一方、思春期層の妊娠・出産数、産前産後健診数、カウンセリング数のデータを収集、整備することの重要性について保健所スタッフの理解を促し、4つの保健所でこれらのデータが整備された。さらに、保健所や学校と協議を重ね、思春期層がリプロダクティブヘルスに関する相談や啓発活動を行うことができる場所として、各対象地の学校内及び保健所に「ピアルーム」が設置された。</p> <p><u>活動2: 学校教師、父母(PTA)、保健所間の協力体制の構築</u></p> <p>活動1で実施した保健所スタッフに対する研修と学校教師に対する研修を合同で実施し、48名が参加した。当初、学校教師に対する研修は保健所スタッフとは別に実施する予定にしていたが、保健所との連携をより強固なものとするために合同で実施し、保健所スタッフとともに思春期リプロダクティブヘルスを向上させるためのアクションプランを作成した。同プランにより、活動1で設置した各ピアルームの相談日を設け、保健所スタッフのカウンセリングが必要な思春期層を教師がリファー(紹介)するという相談体制が構築され、リファー用紙(紹介状)も作成された。これにより32人の思春期層がリファーされ、保健所スタッフのカウンセリングを受けた。</p> <p>また、思春期層の父母100人に対し、思春期の身体、性教育の重要性等に関する研修を3回に分けて実施した。参加した父母からは、リプロダクティブヘルスについて正しい知識が得られた、これらに関する話題について、子どもたちとオープンに話せるようになったなどの声が聞かれた。</p> <p><u>活動3: ピアリーダーの育成</u></p> <p>学校教員の協力により、成績やリーダーシップ性などを考慮して、ピアリーダー102名を選出した。価値観、人生設計、思春期層がリプロダクティブヘルスに関する理解を深めるための活動計画(アクションプラン)の作成方法等について、全5回10日間の研修を通して学んだ。</p> <p>選出され、研修を受講したピアリーダーは、思春期層や小学生への研修などを活動計画に基づいて実施した。</p>

	<p>活動 4：思春期層のリプロダクティブヘルスに関する知識の向上</p> <p>活動 3 で選出され、研修を受講した 4 つの地区のピアリーダーたちは、同級生を対象に、リプロダクティブヘルスやピアルームの活用を推進するための研修や、レクリエーション要素と組み合わせた思春期層への啓発活動などを含んだ活動計画（アクションプラン）を策定した。これに基づいてピアリーダーたちは、性の権利や人生設計など、リーダー研修で学んだテーマについて小グループの研修活動を 25 回実施した他、活動 1 で記載したように、保健所や保護者とともによりサイクルフェア、映画上映会などの啓発イベントを計 9 回行い、延べ 3,049 名の思春期層が参加した。またピアルームの広報、性の権利など、6 つのテーマに関するパンフレットを各種 2,000 部作成し、各活動時に配布した。参加した思春期層は同年代の生徒から受ける研修に高い関心を示し、活動的な研修から積極的に学ぶことができた。</p>
(3) 達成された成果	<p>事業目標：対象地域において、思春期層が適切なリプロダクティブヘルスケアを受けられるようになる</p> <p>【指標 1】思春期層に対するリプロダクティブヘルスに関するカウンセリングが保健所で開始され、思春期層（10 歳～19 歳）200 名がカウンセリングを受ける。</p> <p>事業開始後 2015 年 3 月～2016 年 2 月までに、645 名が保健所でリプロダクティブヘルスに関するカウンセリングを受けた。</p> <p>【指標 2】思春期層の妊婦の産前健診の受診件数が 20%増加する。</p> <p>2014 年（1 月～12 月）：680 件（新規妊婦数 182 人、1 人当たり 3.7 回） 2015 年（1 月～12 月）：623 件（新規妊婦数 161 人、1 人当たり 3.9 回）</p> <p>上記の通り、思春期層の妊婦が受診した産前健診総数は 10%弱減少しているが、思春期の妊婦数自体が減少し、一人あたりの健診回数は微増していることから、事業が目的とする「思春期層の妊娠の減少」と「妊娠したケースへのケア・サービスの向上」への効果は発現しているものと考えられる。</p> <p>各活動に対する成果：</p> <p>成果 1：保健所での思春期層へのリプロダクティブヘルスケアサービスの内容と提供環境が向上する。</p> <p>【指標 1-1】保健所スタッフ 14 人のリプロダクティブヘルスに関する知識が向上する。</p> <p>⇒研修前後のテストの結果、12 名のうち 11 名の知識の向上が確認された（平均正答率 53%→75%）。（保健省の人員配置計画の変更により、事業開始時に対象となったスタッフは 12 名であった。）</p> <p>【指標 1-2】保健所において思春期層の妊娠・出産数、産前産後健診数、カウンセリング数のデータが整備される。</p> <p>⇒各保健所でデータが整備された。正確な数値がとれるよう、モニタリングおよび研修時にデータ取得方法の再確認も行った。</p>

【指標 1-3】保健所において思春期リプロダクティブヘルスに関するアクションプランが策定され、実施される。

⇒各保健所で、定期的に学校でワークショップを行う、ピアルームに質問箱を設置する、啓発イベントを行うなどのアクションプランが策定され、継続的に実施されている。

【指標 1-4】リプロダクティブヘルスに関するサービスを受けた思春期層の80%がサービスに満足する。

⇒保健所スタッフによるカウンセリングを受けた 632 人中、108 名から得られたアンケートで、80%が満足したと回答し、100%が友人等にもサービスの利用を勧めたいと回答している。

【指標 1-5】保健所スタッフ 14 人がピアサポーターとして養成される。

⇒12 名の保健所スタッフが研修を受講し、ピアサポーターに必要とされる知識と技術を身に付けた。(保健省の人員配置計画の変更により、事業開始時に対象となったスタッフは 12 名であった。)

【指標 1-6】ピアルームが約 200 名の思春期層に利用される。

⇒2015 年 10 月～2016 年 2 月の間に、カウンセリングやピア教育への参加など、延べ 1,360 名がピアルームを利用した。

成果 2 : 学校教師、父母 (PTA)、保健所間の協力体制が構築される。

【指標 2-1】研修を受ける学校教師 50 人が思春期リプロダクティブヘルスに関する正しい知識を身につける。(試験の平均正答率が 70%以上。)

⇒研修開始前 (48 名) とすべての研修が終了後 (42 名) にリプロダクティブヘルスや自尊心等の知識を問うアンケートを実施したところ平均正答率が 38%から 71%に増加した。

【指標 2-2】教師から保健所への相談体制が構築される。

⇒事業開始前には相談する体制が無かったのに対して、事業期間の 1 年間に 32 件のリファーが確認された。思春期のリプロダクティブヘルスに関する研修を、保健所スタッフと教師と一緒に受講してアクションプランを作成したことで、早い段階で、教師から紹介された思春期層が保健所スタッフのカウンセリングを受けられる体制が構築された。スムーズなリファーのために作成されたリファー用紙も適宜活用された。

【指標 2-3】研修を受ける思春期層の父母 100 名が思春期リプロダクティブヘルス教育に対する理解を深める。(試験の平均正答率が 60%以上)

⇒研修開始前 (96 名) とすべての研修が終了後 (87 名) の父母にリプロダクティブヘルスや自尊心等の知識を問うアンケートを実施したところ平均正答率が 54%から 83%に増加した。

成果 3 : ピアリーダーが育成される。

【指標 3-1】ピアリーダー100 名の 80%が思春期リプロダクティブヘルスに関する啓蒙活動を継続している。

⇒ピアリーダー102 名のうち、本事業終了時点で 92 名 (90%) が継続的に活動を実施しており、また継続の意思を持っている。

	<p>【指標 3-2】活動を継続しているピアリーダーの思春期リプロダクティブヘルスに関する知識が向上する。(試験の平均正答率が 70%以上) ⇒研修開始前(102名)とすべての研修が終了後(84名)にリプロダクティブヘルスや自尊心等の知識を問うアンケートを実施したところ平均正答率が 62%から 87%に増加した。</p> <p>【指標 3-3】ピアリーダーから各保健所への相談体制が構築される。 ⇒リーダーから保健所へのリファーマ用紙によるリファーマは確認されていないが、口頭でのリファーマが報告されている。また、以前より思春期層が保健所を気軽に訪れるようになるなど、様々な活動を通じて、リーダーをはじめ思春期層と保健所スタッフとの間に信頼関係が築かれつつある。</p> <p>成果 4：思春期層のリプロダクティブヘルスに関する知識が向上する。</p> <p>【指標 4-1】ピアリーダーによる活動計画(アクションプラン)が策定されその 80%以上が実施されている。 ⇒全 4 地区で思春期や子どもに対する研修やリプロダクティブヘルスフェアを実施するといったアクションプランが策定され、そのほとんど(96%)が実施されている。</p> <p>【指標 4-2】思春期の青少年約 2,000 人が、学校内外でのピア教育、レクリエーション活動、パンフレット配付等によりリプロダクティブヘルスに関する知識・サービスについて啓発される。 ⇒事業期間中に延べ 3,049 名の思春期層が学校内外でのピア教育、レクリエーション活動、パンフレット配付等によりリプロダクティブヘルスに関する知識・サービスについて啓発された。</p> <p>【指標 4-3】思春期層の 80%が知識を向上させる。 ⇒事業前半と後半に思春期層にリプロダクティブヘルスや自尊心等の知識を問うアンケートを実施したところ 189 人中 174 人(92%)が知識を向上させた。(平均正答率 50%→80%)</p>
(4) 持続発展性	<p>事業で整備された各学校のピアルームは生徒同士のピア教育だけでなく、保健所スタッフの訪問カウンセリング等にも活用されている。保健所のピアルームは複数の思春期層を対象にした研修に使われているほか、個別のカウンセリング、未就学思春期層の教育にも活用されている。保護者、学校教員、保健所スタッフともに、思春期層に対するケアの必要性を強く感じていることから、非常に協力的であり、事業終了後も研修で得た知識を基に、持続的に利用されることが期待される。また同地域の保健事務所および教育事務所でも思春期層のリプロダクティブヘルスを重視しており、継続した取り組みが見込まれる。</p>